

てこよう。

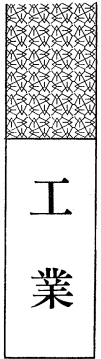
## 二 まとめにかえて

授業実施後、一クラス分の生徒の報告文を集めた小冊子を編んで、一冊ずつ生徒に配布した。四月からの『現代社会』の毎授業の糸口に、身近な問題を取上げるとき、大いに参考になっている。

かつて柳田国男は「郷土研究の話」(昭和十六年)において「村の長老などは元はよく話してくれたもので、教えずに死ぬのは悪いときえ彼等は思っていた。それが又青年教育でもあった。今はそういう人々が黙っている。しかし問えば必ず喜んで謂うであろう」と述べている。

あえて言えば、社会科における聴き取り学習の試みが、家庭・学校・社会の共有する教育機能の焦点になり得るかもしれないということである。この聴き取りを通じて、生徒が祖父母の顔の皺や両親のうしろ姿に何がしかの感慨を抱くことがあるような気がする。そして、生徒たちが、やがて人の親となるとき、語り伝えるべき何ごとかを胸に宿し始める契機となると思う。

この夏、本校の一年生は全員、聴き取りカードを持って家に帰った。生活予定表に「会津へ行く。祖父母から話を聞くため」などと記入されていた。生徒たちが、その若い魂に、どんないどりを添えて登校してくるか、楽しみになことである。



## 実験・実習を中心とした学習指導の実践

福島県立川俣高等学校

教諭 樋口 通 哉

昭和四十年代後半から年々多様化してくる生徒の実態(目的意識の少ない生徒・学習意欲の欠如、基礎学力の不足・多様な進路等や女子生徒の五〇%台から七〇%台への増加)に対応して

「繊維工学Ⅱ」の専門科目の学習内容の精選・指導法の研究に取り組んだ。その結果、多様な生徒の実態と恵まれた施設(現有率八二%)設備(現有率七

一 実験・実習を中心とした学習指導の歩み

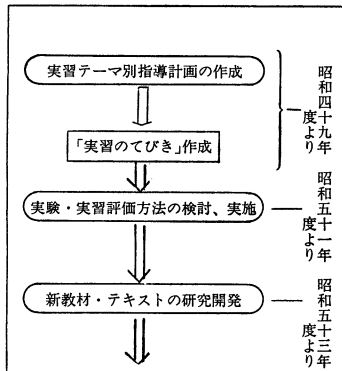
(一) 専門科目指導内容の洗い直し

昭和四十七年度に、「繊維工学Ⅰ」

いかにして『専門科目の学習に興味・関心を持たせるか、生徒がわかる授業とは』の具体的研究に取り組み実践してきた。ここに現在までの実践の歩みと、昭和五十七年度よりの新教育課程への移行以後の展望を記してみたい。

表1 新しい指導計画、繊維工学(I)指導計画

単元名	学習項目	学習方法		教材・教具 資料	指導上の留意点
		実習	座学		
1. 繊維の種類と製法	(1)衣料繊維の歴史 (2)繊維の構造 ①糸から繊維へ ②綿繊維の構造 ③繊維の分子 (3)高分子物質 ①プラスチック、ゴム、繊維 ②繊維高分子 (4)繊維の種類 ①天然繊維と化学繊維 ②繊維の製法	○(1年) ○(1年)	○(2年) ○(2年)	スライド O・H・P  スライド O・H・P サンプル 溶解紡糸装置	○人間の生活と衣料繊維のかかわりとその発展経過 ○糸→繊維→ファイブリーミセル→高分子(→分子) ○高分子の意味とその内容 ○繊維高分子の特性 ○モノマー→ポリマー→繊維 ○化学繊維の紡糸の実験
		○(1年) ○(1年)	○(2年) ○(2年)	スライド O・H・P	○湿式、乾式、溶解の各紡糸法の特徴とその繊維名
2. 化学繊維の紡糸	(1)重合、紡糸液、紡糸、延伸、後処理 (2)化学繊維の製造原理	○(1年) ○(1年)	○(2年) ○(2年)	スライド O・H・P	○湿式、乾式、溶解の各紡糸法の特徴とその繊維名
3. 繊維の性質と用途	(1)各種繊維の性質(生なものを) ①形態的性質 ②物理的性質 ③化学的性質 (2)各種繊維の特徴と用途	○(1年)	○(2年)	スライド O・H・P  O・H・P 繊維性能表	○綿、羊毛、絹、レーヨン、ナイロン、ゼニロン、ポリエステル、アクリル ○2年の座学では、1年の実習リポートを使用 ○繊維性能表の見方と用語の意味
4. 糸	(1)糸の種類 (2)糸の太さ	○(1年) ○(1年)	○(2年)	サンプル 試験器	○サンプルをシートに貼付 ○番号とデニールの区分
5. 紡績概論	(1)糸の製法 (2)紡績の種類 (3)紡績の原理と工程	○(1年) ○(1年)	○(2年) ○(2年)	スライド 紡績設備 O・H・P  綿糸	○紡績、紡糸、製糸の区分 ○紡績糸とファイラメント糸の特徴と用途 ○実習設備の一貫紡出運転の観察



② 第二学年での指導  
第一学年での体験的学習を基に、座学と実習の構造化を図り、座学が実験・実習の指導過程の中で展開される学

① 第一学年での指導  
従来、第一学年で指導してきた座学を、入学当初の生徒に専門に対する親しみと関心を起こさせるため、作業を通して体験的、具体的にわからせる実験・実習を中心とした学習へと変更した。(実習四単位から六単位へ増量)

① 第一学年での指導  
従来、第一学年で指導してきた座学を、入学当初の生徒に専門に対する親しみと関心を起こさせるため、作業を通して体験的、具体的にわからせる実験・実習を中心とした学習へと変更した。(実習四単位から六単位へ増量)

(二) 新しい指導計画にもとづく学習指導  
新指導計画を実施するに当たって、生徒の到達段階、専門科目相互の関連性を考えて、わかる授業実践のため次の指導過程を設定した。